

「福音(イエス様の教え)は、ちむどんどん」

「主にあっていつも喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。」

(聖書協会訳聖書 フィリピの信徒への手紙 4:4)

NHKの連続テレビ小説をご覧になって
いますか。私は楽しみに視聴していま
す。(録画してまとめて1週間分見るこ
とが多いですが)

今期は『ちむどんどん』です。沖縄に生
まれ育ったヒロインと兄妹たち家族の
50年の歩みを見つめる家族の物語で
すが、沖縄の言葉がたくさん出てきま
す。今から20年前、2001年にも沖縄を
舞台とした『ちゅらさん』が放映されて
いましたが、その時は沖縄の言葉には
字幕がついていました。しかし、今回
のドラマは字幕が出ていません。驚き
や悲しみを表す「アキサミヨー」や、「ア
ガッ(痛ッ)」といった言葉が、説明もな
く多用されています。

私が気になる沖縄言葉は「まくとう
そーけー、なんくるないさ」です。調べ
てみると

「正しいことをしていれば、なんとかな
るさ」、つまり「人事を尽くして天命を
待つ」という意味のようです。奥深い
ですね。

そして番組のタイトルにもなっている
「ちむどんどん」ですが、「心がワクワク
する」という意味だそうです。「ちむ」は
「肝」ですから、言い換えると体の内臓
が喜ぶ、外側からではなく、心の内側
から喜びが溢れてくるという意味なの
でしょう。

イエス様が私たちを「深く憐れむ」のは

「断腸の思い」という意味があります。
イエス様の喜びや悲しみ、そして笑顔
も涙もすべて外側だけの薄さではな
く、心の奥深い内側からあふれ出てく
るものだと思います。共に祈る、共に
時間を共有してお互いに耳を傾けて
語り合う単純素朴な営みこそ今必要
な事だと切に感じます。8月20日(土)
にヴァイアル山荘で大館聖パウロ教会
の皆さんと合同礼拝を行いました。が、
その時間はまさに礼拝を一緒に捧げ、
時間の許す限りゆっくりと語り合う時
間でした。私はこのようなシンプルな
プログラムを大切にしていきたいと思
いました。「祈りと交わり」こそ私たちの
心を支え、私たちをつなぎ合わせてい
くものなのでしょう。コロナ禍になり、
何かと閉塞感がある日々ですが、そん
な時だからこそ今日の出会、今日の
出来事の中に私は「ちむどんどん」した
いなと思います。

イエス様の教えは私たちの心を「ちむ
どんどん」して下さいます。福音の喜
びが皆さんお一人お一人の上にあ
りますようにお祈りいたします。

(司祭 越山哲也)